

広がる災害救助の輪

緊急消防援助隊

平成23年3月11日、午後2時46分頃に太平洋三陸沖を震源として発生した、東北地方太平洋沖地震。日本国内では観測史上最大規模となり、東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。この地震による被害で、全国各地の消防職員は、緊急消防援助隊として、被災地において救助活動等、行いました。



緊急消防援助隊とは、日本における全国的な消防応援の制度に基づく消防部隊のことで、被災地の消防力では対応困難な大規模・特殊な災害の発生に際して、発災地の市町村長・都道府県知事あるいは、消防庁長官の要請により出動し、現地で都道府県単位の部隊編成(消火部隊・救助部隊・救急部隊など)がなされ、災害活動を行います。

御代田消防署からも3月12日から3月27日まで総勢9名を派遣し、長野県隊として宮城県の大賀城市、七ヶ浜町、名取市で活動を行いました。佐久広域では17隊91名で、長野県全体としては、215隊、787名が活動してきました。(全国では5月17日現在で、7,500隊、約28,400人)

今回の東日本大地震で最も被害をもたらしたのが、予想していなかった津波によるものです。御代田町においては津波による心配はありませんが、予想していなかった災害や、地震などによる災害がいつ



いつでできた？

平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災。この地震で発生した火災の消火や救助活動のため、消防職員による広域的な応援活動が行なわれました。しかし、あまりに大規模な災害であったこともあり、応援部隊の活動等に関する規定やマニュアルが整備されていなかったため、運用面等で多くの課題を残した。

これを契機に、平成7年7月、全国の消防機関による消防応援を迅速・円滑に実施するため、緊急消防援助隊が発足されました。

「東日本大震災」災害ボランティア

町と町区長会、町社会福祉協議会で募った災害ボランティアに応募いただいた町内の方と町社会福祉協議会職員の合計12名が、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県大槌町及び山田町で5月11日～13日の3日間、活動を行い、土砂のかき出しや被災家屋内の清掃、消毒、救援物資の仕分といった作業に従事されました。



●問い合わせ先 佐久広域連合御代田消防署 (32)0119

御代田中学校建設第3期工事について



旧校舎

平成21年5月に着工しました、御代田中学校建設第1期工事および、昨年の6月に着工しました、第2期工事が、本年3月に終了しました。広報4月号にて、ご紹介しましたとおり、新校舎および、共同調理場の使用が始まっています。

今年度は、平成21年度より始まりました、御代田中学校建設3箇年計画の最終年となり、第3期工事を実施します。

第3期工事の概ねの予定としましては、6月の中旬より、旧校舎の解体工事を行い、9月から12月上旬にかけてグラウンド造成および、外構工事を実施する予定とされています。

旧校舎解体工事につきましては、施工の際、騒音等が発生しますが、防音シートを周囲に貼るなどして、騒音が軽減されるよう対策を採ってまいります。

平成23年度につきましても、引き続き町民の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、子どもたちのより良い教育環境づくりのため、ご理解、ご協力をお願いいたします。

また、9月より予定をしております、グラウンド造成につきましても、砂埃のたちにくい無機系の土壌改良剤を使用したクレー舗装とし、砂塵対策を予定しております。

同じく9月より予定しております、外構工事の主なものとしては、通学生徒と車両の出入口を分離した、来校者用駐車場を計画しています。

これにより、送迎時の混雑が解消され、校門前道路の安全が確保されます。



グラウンド面から見た完成予想図

御代田中学校建設 第3期工事工程計画表

工事内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
旧校舎解体	■						
グラウンド造成				■			
外構工事				■			

※本計画は、平成23年4月1日現在のものです。諸事情により、工程計画は変更になる場合があります。

問い合わせ先

教育委員会学校教育係

(32)9100